

Financial release

平成 19 年 7 月 26 日
英文リリース日本語訳

シンジェンタ 2007 年上半期業績発表

スイス・バーゼル市 2007 年 7 月 26 日

「力強い業績: 改善された市場見通し」

- 売上は、9%増の 57 億ドル
- 農薬の売上は、恒常為替レート(CER)で 7%増の 43 億ドル
- 新製品の売上は、15% (CER) 増加して 7 億 6000 万ドル
- 種子の売上は、4% (CER) 増の 14 億ドル
- 1 株当たりの利益は、16%増加し 12.13 ドル
- フリーキャッシュフローは 3 億 600 万ドル: 通年の償還額を約 10 億ドルに増加

財務概要(未監査)

	2007 上半期		特別項目を除く 前年同期		ドルベース %	CER %	IFRSによる報告数字 2007 上半期		前年同期	
	百万ドル	¥(億円)	百万ドル	¥(億円)			百万ドル	¥(億円)	百万ドル	¥(億円)
売上高	5690	6,856	5201	5,995	+9	+6	5690	6,856	5201	5,995
純利益	1190	1,434	1056	1,217	+13		1219	1,469	961	1,108
一株当たり利益	\$12.13	15	\$10.44	12	+16		\$12.43	15	\$9.51	11

換算レート: 2007 年: \$1 = 120.48 円, 2006 年: \$1 = 115.26 円

文中の前年比は恒常為替レート(CER)による。

最高経営責任者のマイケル・プラグネルは、次のように語りました。「堅調な農業市場においてシンジェンタの幅広い革新的な製品群が多くの機会を捕らえ、堅調な財務業績を達成しました。農薬の売上高は全地域、全製品群において増加し、殊にヨーロッパとラテンアメリカでの業績が顕著でした。プロフェッショナル・プロダクツ部門は、シードケア製品が原動力となって成長し、ローン & ガーデン関連では統合後初めてファファード製品が売上増加に貢献しました。新製品は引き続き二桁台の売上増を達成しました。種子部門は、米国で大豆からとうもろこしへの予想を越えた作付面積の転換が行なわれたため、とうもろこしの売上が増加し、大豆の売上減を埋め合わせることになりましたが、短期的にはこの大豆の落ち込みがマージンに悪影響を及ぼしました。シンジェンタの新規コーンルートワーム形質は、販売開始以来堅調な売上を達成しています。野菜種子は記録的な成長を維持し、花卉種子は市場の回復をフルに利用して売上を伸ばしました。種子部門では、更なる発展に向けいくつかの戦略的施策を講じました。花卉分野におけるフィッシャー・フラワー社の買収、野菜分野におけるイスラエルのゼライム・ゲデラ社(Zeraim Gedera)の買収、中国のとうもろこし種子企業 SanBei 社との合併事業を強化するため、北京の「遺伝学・発生生物学研究所」と共同研究の合意を行なったことなどです。研究開発中の製品群についても好調な進展がありました。更なる業務効率化によるコスト削

減に支えられて売上高が増加したことにより、堅調な収益性とフリーキャッシュフローが達成され、また将来の成長に向けて更に投資を続けることができました。」

2007年上半期ハイライト

売上高は、6% (CER) 増加しました。農薬の売上は7%増、種子の売上は4%増でした。

EBITDAは、10% (CER) 増加して17億5000万ドルでした。これには、VipCot 技術契約に関する支配権の変更によるデルタ&パインランド社からの臨時返還金の5000万ドルが含まれています。業務効率化による8400万ドルのコスト削減は、3700万ドルという急成長部門の販売・開発費の増加を相殺して余りあるものでした。

1株当たりの利益は、特別項目を除くと、16%向上し、12.13ドルでした。デルタ&パインランド社からの臨時返還金を除くと、一株当りの利益は12%向上しました。特別項目費を差し引いた後の一株当りの利益は12.43ドル(2006年は9.51ドル)でした。これには、バーゼルの工場を売却したことによる資産売却益が含まれます。

通貨：特にユーロと比較して、米ドルが比較的弱かったため、売上に3%のプラス効果が現れました。EBITDAに対するプラス効果も3%でした。

農薬：全製品、全地域において売上が増加しました。最も売上に貢献した地域は、ヨーロッパ、アフリカ、中近東およびラテンアメリカでした。西ヨーロッパの市場は、作物価格が高騰したことに刺激を受け、2006年の悪天候の状況から回復しました。東ヨーロッパでは、市場をリードする地位と、農業の近代化への意気込みを支えられ、引き続き二ケタ台の売上増を達成しました。ラテンアメリカでは、下半期の本格的な使用時期に先駆けた需要の増加により、顕著な売上増を記録しました。NAFTAでの成長は比較的緩慢なものでした。その理由は、米国のとうもろこし作付面積が増加したことによるプラス効果が、遺伝子組換え品の浸透向上により大幅に相殺されたことです。アジア太平洋地域では、中国、インドおよび急成長の南西アジア市場での力強い成長が、日本とオーストラリアでの停滞を上回りました。新製品は引き続き売上増に大きく貢献し、新規殺菌剤レーバス®の発売もあり15%増を達成しました。これらの新製品が継続的に成功しているため、既存と新規の製品を合わせた販売目標を11億ドルから15億ドルに上方修正することになりました。更に、2008年から上市される開発中の強力な新製品群を加えると、最大売上予想額は13億ドル以上になります。

プロフェッショナル・プロダクツ：シードケア部門の第1四半期の好調な業績と、ローン&ガーデン部門におけるファファード社との統合によるプラス貢献に支えられ、売上は12% (CER) 増加しました。シードケア部門は、新製品が確実にシェアを伸ばしており、より付加価値の高い種子を求める市場の趨勢にも支えられ、需要増の機会をフルに生かしています。

農薬とプロフェッショナル・プロダクツの合算EBITDAは、売上高の増加とコスト削減増により10% (CER) 向上して15億ドルに達しました。

種子：とうもろこしの世界的な売上増は、作物価格の高騰と作付面積の拡大によるものでした。米国では、大豆の作付面積が急激に減少したためその売上が落ち込み、とうもろこしの売上を相殺しました。シンジェンタは、米国でのとうもろこし製品群を全面的に従来品から形質導入品(遺伝子組換え品)に転換しており、アグリシユアRWが更なる前進を示しました。とうもろこしのバイオテクノロジーに関する市場は急速に拡大しており、シンジェンタは今後もあらゆる機会を捕らえるため研究開発への投資を増やす計画です。この製品転換と、それに伴う研究開発への投資は、短期的には、とうもろこしは大豆より利益率が少ないことを意味します。完全に形質化したとうもろこしの品種を開発することによって、種子部門のEBITDAマージンは、2009年以降2011年の15%目標に向けて大きく向上する見通しで、それ以降も更なる拡大が見込まれます。各種畑作物種子の売上は1%減少しました。野菜では、売上増が15%までに達し、またエマーゼント・ジェネティクス・ベジタブル社の統合が提供製品の幅を更に広げました。

上半期にはいくつかの戦略的に重要な進展が見られました。中国のとうもろこし種子企業の大手 San Bei 社の株式を 49% 買収することを発表したほか、とうもろこし、大豆、てん菜、さとうきび等の主要作物に導入する新規農業形質を中心に、北京の「遺伝学・発生生物学研究所」と 5 年間の共同研究を行なうことを公表しました。これらの取り組みにより、とうもろこし分野におけるシンジェンタの存在は更に大きなものとなりました。7 月には、地中海市場で重要な地位を占め、高価値作物を専門とするイスラエルの野菜種子企業であるゼライム・ゲデラ社を買収することを発表しました。この買収は 2007 年第 4 四半期中に完了する予定です。花卉分野では、フィッシャー社の買収が 6 月 25 日に完了し、シンジェンタは推定シェア 16% を占める世界的リーダーとして、その地位が更に強化されました。

2 億 200 万ドルという低めの EBITDA は、米国での大豆対とうもろこしの作付面積の転換と研究開発・販売費の増大が粗利益に及ぼした影響に因るものでした。

キャッシュフローとバランスシート: 買収後のキャッシュフローは 3 億 600 万ドル (2006 年は 9800 万ドル) でした。これには、パーゼルの工場売却益 1 億 4600 万ドルとデルタ & パインランド社からの支払額 5000 万ドルが含まれています。売上率としての平均運転資本率は、前年と変わらず 42% でした。固定資本支出は前年を上回る 1 億 2500 万ドル (2006 年は 1 億 900 万ドル) で、これは特定分野での投資増を反映しています。

課税: 今期の基礎税率は 22% (2006 年も 22%) でした。

株主に対する現金償還: 2007 年上半期にシンジェンタは第二トレーディング・ラインを通じて 220 万株の自社株を総額 3 億 9900 万ドルで買い戻しました。配当金として総額 1 億 2800 万ドルを 5 月 7 日に支払いました。追加の配当金として総額 1 億 7400 万ドルを額面割引という形で 7 月 24 日に支払いました。2007 年中現在までに株主に支払った総額は 7 億 100 万ドルでした。シンジェンタは、更に自社株の買い戻しを進めることで 2007 年通年の現金償還額を約 10 億ドルまで引き上げる意向です。2006 年に買い戻した 330 万株は 7 月 17 日に消却しました。

見通し

最高経営責任者マイケル・プラグネルは、次のように述べています。

「シンジェンタの上半期における力強い業績は、シンジェンタの財務力、事業力を映し出すものです。下半期に対するプラスの見通しと相俟って、この業績によって、シンジェンタは 2007 年通年の目標として一株当りの利益を 10% 台半ばまで引き上げることができます。更に先の将来を見通しますと、人口増加や食糧・バイオ燃料の需要など世界中の多くの重要課題に取り組むに当たり、農業の果す役割が年々その重要性を増しており、これらの課題に取り組む手助けをするためにシンジェンタは他に類を見ないほどの立場にあります。シンジェンタがもつ革新能力、技術の大きさ、世界的な活動範囲は、シンジェンタが無数にある機会を捕らえ、成長に弾みをつけ、株主に対する価値を更に高めるのにふさわしい立場にいる、ということの意味します。」

シンジェンタは、革新的な研究と技術とにより持続可能な農業を約束する、世界のアグリビジネスをリードする企業です。農業の分野では世界第 1 位、高付加価値種子の分野では、世界第 3 位にランクされています。2006 年度の売上高は約 81 億ドル、世界 90 カ国以上で事業を展開し、約 21,000 人の従業員を擁しています。シンジェンタは、スイスとニューヨークの株式市場に上場しています。さらに詳しい情報は、インターネット www.syngenta.com (英語) または、www.syngenta.co.jp (日本語) でご覧ください。

農薬

製品群	2007年 上半期		2006年 上半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %	2007年 第2四半期		2006年 第2四半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %
	百万ドル	億円	百万ドル	億円			百万ドル	億円	百万ドル	億円		
選択性除草剤	1,423	1,714	1,313	1,513	+8	+5	787	948	703	810	+12	+9
非選択性除草剤	461	555	422	486	+9	+7	277	334	255	294	+9	+6
殺菌剤	1,183	1,425	1,065	1,228	+11	+6	606	730	526	606	+15	+10
殺虫剤	664	800	602	694	+10	+7	347	418	307	354	+13	+10
プロフェッショナル・プロダクト	554	667	490	565	+13	+12	235	283	246	284	-4	-6
その他	18	22	24	28	-24	-24	7	8	7	8	-3	-1
合計	4,303	5,184	3,916	4,514	+10	+7	2,259	2,722	2,044	2,356	+11	+7

地域	2007年 上半期		2006年 上半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %	2007年 第2四半期		2006年 第2四半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %
	百万ドル	億円	百万ドル	億円			百万ドル	億円	百万ドル	億円		
欧州・アフリカ・中近東	1,670	2,012	1,542	1,777	+15	+7	842	1,014	708	816	+19	+11
北アメリカ(NAFTA)	1,597	1,924	1,579	1,820	+1	+1	914	1,101	928	1,070	-2	-2
ラテンアメリカ	449	541	327	377	+37	+37	219	264	145	167	+50	+50
アジア太平洋	587	707	558	643	+5	+3	284	342	263	303	+8	+5
合計	4,303	5,184	3,916	4,514	+10	+7	2,259	2,722	2,044	2,356	+11	+7

換算レート:2007年:\$1 = 120.48 円、2006年:\$1 = 115.26 円

文中の前年比は恒常為替レート(CER)による。

種子

製品群	2007年 上半期		2006年 上半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %	2007年 第2四半期		2006年 第2四半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %
	百万ドル	億円	百万ドル	億円			百万ドル	億円	百万ドル	億円		
トウモロコシ及び大豆	732	882	708	816	+3	+2	175	211	210	242	-16	-18
畑作物	254	306	242	279	+5	-1	87	105	83	96	+5	-
野菜・花卉	432	520	370	426	+17	+11	216	260	181	209	+18	-13
合計	1,418	1,708	1,320	1,521	+7	+4	478	576	474	546	+1	-3

地域	2007年 上半期		2006年 上半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %	2007年 第2四半期		2006年 第2四半期		現地 通貨 %	恒常為 替レート %
	百万ドル	億円	百万ドル	億円			百万ドル	億円	百万ドル	億円		
欧州・アフリカ・中近東	577	695	516	595	+12	+3	194	234	173	199	+11	+4
北アメリカ(NAFTA)	722	870	717	826	+1	+1	216	260	252	290	-14	-14
ラテンアメリカ	49	59	35	40	+40	+40	29	35	21	24	+39	+38
アジア太平洋	70	84	52	60	+34	+26	39	47	28	32	+40	+30
合計	1,418	1,708	1,320	1,521	+7	+4	478	576	474	546	+1	-3

換算レート:2007年:\$1 = 120.48 円、2006年:\$1 = 115.26 円

文中の前年比は恒常為替レート(CER)による。

お問い合わせ先

シンジェンタ ジャパン株式会社

広報 大塚 真理子

電話 03-6221-1001

ファクシミリ 03-6221-1052

〒104-6021 東京都中央区晴海 1-8-10 オフィスタワー X21 階

<mailto:mariko.ohtsuka@syngenta.com>